

石見銀山（石見国大森代官）の名代官といえ、皆さん『芋代官』として有名な井戸平左衛門の名前が浮かぶことと思います。井戸平左衛門は、その「善政」で知られる人物ですが、当時の幕府が高く評価した「名代官」を一人、ご紹介します。

寛延2年（1749）に大森代官となった天野助次郎は、大森代官の中で最も出世をしたと考えられる人物です。助次郎は小禄しょうろくの旗本の出身ですが、『寛政重修諸家譜』によれば、先祖は大代三河松平氏みかわまつだいらに仕えており、家系としては徳川家康の古くからの家臣として有名な天野康景の同族にあたります。

さて、助次郎の大森での事跡として記録に残るのは、現代でいうところの「公務員制度改革」でした。

銀産出の衰えた大森では、銀山繁栄時から慣例的に地元で世襲された役人（地役人）の数が多く、代官所の財政を圧迫していました。

このことは助次郎の着任する70年以上前からの積年の課題となっていました、それまで何人も代官が、慣例による身分保障を訴える地役人の

抵抗などにより改革に失敗していたのです。

そうした中で大森代官に着任し、勘定奉行から人員削減の指示を受けた助次郎は、その世襲の慣例を「悪習」と断じ、地役人は本来一代限りの身分と確認したうえで全員を解雇、希望者のみ再雇用する改革を断行したのです。これによって地役人の2割が減り、代官所の運営は大いに改善されたといえます。

その後の助次郎は、信濃国中野しなののくになかのの代官を経た後、勘定吟味役（幕府財政全体の会計検査官）に出世します。一般にはこの勘定吟味役が家格の低い旗本の役職の到達点となる例が多く、この時点で出世を極めたと言って良いものでしたが、さらには禁裏付（朝廷の監督役）として、一般大名と同官位となる諸大夫まで出世を続けました。

家格で厳しく統制されていた江戸時代において、代官職を務めるような小禄の旗本が諸大夫まで出世するのは極めて異例のことで、助次郎のほかにも両手で足りる程度の人数しかいません。大森でも発揮した助次郎の優れた行政手腕が買われたのだと言えるでしょう。

【問】石見銀山世界遺産センター ☎0854-89-0183 ホームページ <http://ginzan.city.ohda.lg.jp/>

ちゃんぽし語録⑬

大田市内の一部のまちづくりセンターでは古いひな人形を集めて展示するイベントが行われます。

Aさんもお孫さん(B)を連れてやって来たようです。

【対訳】

A: 見てみんさい、えっとひなさんを並べて、ほんに見栄えがするでな。
 B: ほんにまげだわ。そいだが、ばばはひなさん持って無いだかな？
 A: 昔はひとりわってにゃあ、持っとらへんだったけえね。
 B: そがだ!?
 A: だけえ、ひなさんがある家におなごしでよって、ひなさんさせてもらいよっただ。だけえこがしてよりゃ、懐かしいだに。
 B: そらほんに祭りだだな。
 A: そがだけ。ええべべ着てお菓子持って行くだけな。
 B: そいだが昔のひなさんはあんましかわゆうないな。
 A: そがなことないでな、流行りすたりがああだけ。今と昔じゃ違うだに。
 B: そんなら、昔はじもええおとこだっただかな？
 A: まあそがな、せがらかすだないわね。

A: 見てごらん！たくさんひな人形を並べて、ほんとうに見栄えが良いね。
 B: ほんとうに見事だね。でも、おばあちゃんはひな人形は持って無いの？
 A: 昔はひとりごとには持っていないかったからね。
 B: そうなの!?
 A: だから、ひな人形がある家に女の子たちで集まって、ひなまつりさせてもらっていたの。だからこうして集まると、懐かしいのよ。
 B: それは本当に祭りなんだね。
 A: そうね。いい服を着てお菓子を持って行くからね。
 B: でも昔のひな人形はあまりかわいくないね。
 A: そんなことないのよ、流行り廃りがあるんだから。今と昔じゃ違うの。
 B: それなら、昔はおじいちゃんもイケメンだったの？
 A: まあそんな、からかうんじゃないの。

ひな人形をみるとなぜか心がうきうきしますね。昨年はまちセンにお茶やお菓子を持ち寄って、ひな飾りの前でお茶会をする方もおられましたよ。

みなさんのお宅にも眠っているひな人形がありませんか。今年はぜひ飾ってみてはいかがでしょうか？